日本文学講読（近現代）Ⅰ　　掛野剛史

授業概要

大正期の短篇小説を例に、日本の近代小説の読み方を学びます。
小説を読むということは、これまでの学校教育で学んできた方法とはかなり異なる、別のスキルが必要になります。それらを具体的な小説を例に、演習形式で学んでいきます。
毎回、テキストに収録された小説を読んできてそれを授業内で報告、発表する形をとり、受講者全員でともに考え、小説を読むとはいかなることかを学び、読みの可能性を拡げていくよう指導します。

授業計画

受講者の人数によって変更もあり得る。

第１回	ガイダンス
第２回	発表方法について
第３回	小説を読む方法
第４回	田村俊子「女作者」 についての発表および討議
第５回	上司小剣「鱧の皮」についての発表および討議
第６回	岡本綺堂「子供役者の死」についての発表および討議
第７回	佐藤春夫「西班牙犬の家」についての発表および討議
第８回	里見弴「銀次郎の片腕」についての発表および討議
第９回	広津和郎「師崎行」 についての発表および討議
第 10 回	久米正雄「虎」についての発表および討議
第 11 回	宇野浩二「屋根裏の法学士」についての発表および討議
第 12 回	岩野泡鳴「猫八」についての発表および討議
第 13 回	葛西善蔵「椎の若葉」 についての発表および討議
第 14 回	内田百閒「花火」についての発表および討議
第 15 回	まとめ
第 16 回	課題提出

到達目標

①小説を読み解くとはどのようなものかを知り、読むことの可能性を拡げる。
②他者と意見を交換させる中で、自分の考えを適切に伝え、建設的な意見交換ができるようになる。

履修上の注意

授業内で受講者が最低１回は発表を行い、毎回意見交換する演習の形を取るので、主体的な参加姿勢が必要になる。履修にあたってはくれぐれも注意すること。発表者以外は、毎回発表される小説の内容について事前に読んできて授業の最初にコメントを記すことになる。
①欠席しないこと。特別の理由がない限りすべて出席するのが前提である。
②授業で指示された小説を必ず読んでくること。
③受講者の発表を主体的に聞き、求められたら必ず発言すること。
日本文学講読（近現代）Ⅱと連続した内容だが、どちらか一方の受講でも可

予習復習

【予習】
毎回の授業で指示された小説を読んで、考えたことを報告できるようにすること。
自らの発表担当の時には定められた調査考察を行い、発表資料を作成しておくこと。
【復習】
授業での議論を踏まえ、小説を読み直すこと。

評価方法

授業課題（コメント・発言・受講態度）を 40%、授業内発表を 30%、期末レポートを 30%として評価する。

テキスト

『日本近代短篇小説選 大正篇』（岩波文庫）